# 第 15 回災害廃棄物対策中国ブロック協議会　議事録

日　時：令和３年２月９日（火）13 時 00 分～15 時 00 分
場　所：広島国際会議場　中会議室「コスモス」
　　オンライン会議システム併用
議　事：
（１）報告事項
③ 令和２年度の協議会調査事項の報告
④ 令和２年度の各種事業等の報告
（２）協議事項
① 中国ブロック行動計画に係る改定方針案
② 次年度以降の中国ブロック協議会での取組に係る課題（案）

## １　開会

環境省中国四国地方環境事務所資源循環課 横山課長より開会の挨拶が行われた。

## ２　あいさつ

**（環境省　中国四国地方環境事務所　横山課長）**

所長上田が所用のため出席できず，挨拶文を代読させていただく。

第 15 回災害廃棄物対策中国ブロック協議会の構成団体，有識者の方には平素よりご理解ご協力を賜り感謝申し上げる。本日はお忙しい中，ご参集，あるいはオンラインにてご参加いただき誠にありがとうございます。

本協議会は平成 26 年度に大規模災害における災害廃棄物対策のために立ち上げ，災害廃棄物の適正かつ迅速な処理のための方策，広域連携について検討を行ってきた。平成 30 年 3 月に中国ブロック災害廃棄物対策行動計画を策定したが，その後，毎年のように大規模災害が起きている。多くの自治体には災害廃棄物処理に取り組んでもらっている。このような経験を教訓として，本協議会で中国ブロック災害廃棄物対策行動計画の見直しに向け，様々な調査，検討を進めてきた。

本日は，今年度取り組んだ調査事項結果及び各種事業の報告をさせていただく。調査結果や前回の協議会でいただいたご意見を踏まえ，行動計画の改定方針案をとりまとめているので，後ほどご議論いただきたい。また，来年度以降に向けた課題等も整理しているので，こちらについてもご意見をいただきたい。

本日は限られた時間ではあるが，忌憚のないご意見をいただき，より効果的な広域連携の実現に向けた行動計画の改定につなげたい。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

**（事務局　三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社（以下、ＭＵＲＣ））**

議事に入る前に配布資料の確認をさせていただく。

（資料確認・省略）

本協議会においては，新型コロナウイルス感染拡大防止のため，多くの方にオンライン会議システムを通じて参加していただいている。円滑な進行に努めるが，進行上トラブルが発生する可能性がある。何卒ご理解，ご協力をお願いしたい。

（会場参加者，オンライン参加者へのお願い事項・省略）

それでは，議事に入る。以降の議事進行は，座長にお願いする。

## ３　議　事

**（座長）**

本日は，どうぞよろしくお願いいたします。

それでは，議事に入る。事務局から資料の説明をお願いする。

### （１）令和２年度協議会の運営について　①令和２年度の協議会調査事項の報告

議事の「（１）報告事項　①令和２年度の協議会調査事項の報告」について，事務局より資料１の説明が行われた。説明ののち，以下の通り意見交換がされた。

**（事務局　ＭＵＲＣ）**

（資料１説明・省略）

**（座長）**

事務局から資料１の説明をいただいた。資料１は大きく４つの項目に分かれていた。ご意見・ご質問等があればお願いする。

特にないようである。お気づきの点があれば後ほどお伺いしたい。

それでは，次の議事に移る。資料の説明をお願いする。

### （１）令和２年度協議会の運営について　②令和２年度の各種事業等の報告

議事の「（１）報告事項　②令和２年度の各種事業等の報告」について，東和テクノロジーより資料２－１，２－１，事務局より資料２－３の説明が行われた。説明ののち，以下の通り意見交換がされた。

**（東和テクノロジー）**

（資料２－１説明・省略）

**（座長）**

ありがとうございました。今の説明についてご意見・ご質問等があればお願いする。

**（委員）**

感想になるのだが，素晴らしい業務で，完成したら被災自治体にとって非常にありがたいものになると思う。

災害報告書の一部分になるのが実行計画だと思っている。実行計画は災害が起きた時に作るという位置づけであるが，実行計画の内容をそのまま災害報告書に活用できるようになればよいと思うので，実行計画とリンクすると非常によいものになると思う。立派なものが出来上がることを期待している。

**（東和テクノロジー）**

実行計画の策定支援をしているが，災害報告書の処理フローや発生量推計にそっくりそのまま活用できる点が多々ある。無駄がなく有機的に業務が連携することを考えながら検討していきたい。

**（島根県）**

模擬的災害報告書を研修等で活用できればよいと思っている。報告書はいつ頃配布される予定か。

**（東和テクノロジー）**

3 月 26 日が納期となっているので，それ以降の配布となる。まず，環境省に所定部数を納め，その後については発注元に委ねられる。

**（事務局　環境省）**

今年度業務なので，各自治体へはなるべく早くお配りしたいと考えている。

**（座長）**

他に意見はないか。

年度末の納期までもう少し時間がある。さらに充実したものにしていただければと思う。

それでは，次の資料２－２の説明をお願いする。

**（東和テクノロジー）**

（資料２－２説明・省略）

**（座長）**

ありがとうございました。今の説明についてご意見・ご質問等があればお願いする。

**（委員）**

スライドの８ページの被災自治体へのヒアリング項目の，事務委託の留意点と功罪についての回答として，「コストを負担金として県に支払うことになり，割高感がある」と記載されている。ここについてもう少し詳しく説明をお願いしたい。

**（東和テクノロジー）**

西原村からお聞きしたことを解説したい。県で整備した二次仮置場の利用に際し，西原村をはじめいくつかの市町が県に負担金を払ったが，その負担金が高い，それなら自分たちで仮置場の整備をしておけば良かった，事務負担が減った以上にコスト感があった，というご感想だった。しかし，一方で，大規模災害時に中小規模の自治体ではまとまった仮置場の確保が困難という事情があり，そういう自治体にとっては県の確保した二次仮置場を活用することは有効な手段であったとのことである。

**（委員）**

ありがとうございました。自治体は災害が起きた時にコスト面を考えながら対応すべきなのか，そこで躊躇があっては良くないのではないかと思い，質問させていただいた。

**（座長）**

他に意見，質問はないか。なければ，次の資料２－３の説明をお願いする。

**（ＭＵＲＣ）**

（資料２－３説明・省略）

**（座長）**

ありがとうございました。今の説明について関連する自治体で補足があればお願いしたい。

意見がないようであれば，次の議題へ移る。

**（２）協議事項　①中国ブロック行動計画に係る改定方針案**

議事の「（２）協議事項　①中国ブロック行動計画に係る改定方針案」について，事務局より資料３，資料４の説明が行われた。説明ののち，以下の通り意見交換がされた。

**（事務局　ＭＵＲＣ）**

（資料３，資料４説明・省略）

**（座長）**

ありがとうございました。平成 30 年 7 月豪雨以降，協議会で議論してきた広域連携にかかる部分を中心に今年度の議論を踏まえてまとめていただいた。来年度の改定に向けた行動計画方針案について幅広い見地からご意見ご質問をお願いする。

**（委員）**

資料４の 13 ページ，記載イメージの第２段階（5）広域連携の継続について協議・判断の箇条書きの３つ目に「協議結果を環境事務所に連絡する」とあるが，箇条書きの１つ目では，環境事務所は協議のメンバーという書き方になっている。ここでは，環境事務所への連絡は文書でもって伝えるということを想定しているのか。確認である。

**（事務局　環境省）**

ご指摘のとおり，協議の場に環境事務所は含まれている。箇条書きの３つ目は文書による連絡というよりは，正式な協議結果を被災自治体で取りまとめていただいた方が良いという思いから，ステップを入れた。ただ，ステップを増やすと被災自治体に負担になるので，書きぶりは改めて整理する。

**（副座長）**

改定方針案についての意見ではないのだが，先ほどの今年度事業の報告の中で，四国地方の災害廃棄物処理計画の改定モデル事業が紹介された。中国ブロックでは岡山県が昨年処理計画を改定し，その他４県も計画策定後３～４年が経過していることから，改定の必要性を感じていると聞いている。この中国ブロック災害廃棄物対策行動計画と各県の災害廃棄物処理計画は，考え方の整合をしっかりととる必要がある。そうすることで，ようやく広域連携がうまく回り始めると思う。各県のみならず，大規模な市町の処理計画も同様にブロック行動計画と整合をとる必要がある。

**（座長）**

どうもありがとうございました。他に意見はないか。

私から尋ねたい。資料４の２ページ，Ⅰ．行動計画の目的及び位置づけの【改定の方針案】の３項目めに「近隣のブロックとの連携について明示する」と記載されている。本協議会は中国ブロック協議会ということで，四国ブロックとは別に検討を進めているが，中国ブロックにとって四国ブロックは他のブロックと同じ，つまり one of

them の存在なのか，それとも互いに特別な関係なのか。

**（事務局　環境省）**

中国ブロックにとって四国ブロックは近いので，その他のブロックよりもしっかり連携していきたいと考えている。その他のブロックとの連携は今後検討する必要がある。そのあたりの書きぶりについては整理したい。

**（副座長）**

私は本省の災害廃棄物対策推進検討会の地域間協調 WG のメンバーで，南海トラフなどの巨大地震の発生時に，オールジャパンでどう対応するかということを中心に，どのブロックがどのブロックをどのレベルで応援するか等，課題の検討を進めている。その中のシミュレーション結果によると，地域力に比べて被害の状況が重く，最も重症化しやすいとされているのが四国ブロックで，中国ブロックは中程度ということである。従って，どちらかというと中国ブロックが四国ブロックを応援することになるのではないかと思う。近々本省から，オールジャパンの観点からのブロック間連携の話が伝わってくるだろう。

**（委員）**

行動計画の第１段階，第２段階，３段階について，それぞれどういう状況かが文章で示されている。これは，全ての県が同じ認識で“今はこの段階にある”と判断するものなのか。目安として何週間など日数が記載されているが，それぞれが自律分散して認識して進めるのか。つまり，状況，段階に応じた協力を各自で判断するのか，あるいは環境事務所が判断して広域に知らせるのか，どのように想定しているか。

**（事務局　ＭＵＲＣ）**

今のイメージでは，第１段階は発災直後で，先発隊派遣段階を経て，広域連携の必要性を協議する。その後にあたる第２段階の冒頭で環境事務所から被害状況等の情報共有を行うことになっている。第２段階の終わりに関係者間で第３段階に向けた協議を行い，それを踏まえて第３段階の第１ステップで環境事務所が情報共有を行う。その際に次段階に移ったことが必然的に伝わるのではないかと考えている。第２段階と第３段階は境目が明瞭ではない。

**（委員）**

各段階の協議で次のステップに進むことが分かるようであれば，よい計画書になると思う。ありがとうございました。

**（座長）**

他に意見はないか。ブロック行動計画の改定に向けた議論は来年度も引き続き行う。今いただいたご意見等を踏まえ，事務局で具体的な記載内容等を整理していただく。どうもありがとうございました。

それでは次の議事へ移る。事務局から資料の説明をお願いする。

**（２）協議事項　②次年度以降の中国ブロック協議会での取組に係る課題（案）**

議事の「（２）協議事項　②次年度以降の中国ブロック協議会での取組に係る課題（案）」について，事務局より資料５の説明が行われた。説明ののち，以下の通り意見交換がされた。

**（事務局　ＭＵＲＣ）**

（資料５説明・省略）

**（座長）**

ありがとうございました。取組に係る課題として大きく３つについて整理いただいた。これに対してご意見・ご質問等があればお願いする。

**（委員）**

２．廃棄物処理施設に関する調査の，２つ目：災害時の施設のライフラインや備蓄物品等に関する調査について教えていただきたい。これは，災害発生時にどの程度施設が稼働しなくなるかについての調査か。該当するかどうか分からないが，もし、そうであれば、本省の技術システム WG で昨年度実施した調査が参考になるかもしれない。

３つ目：民間事業者（産業廃棄物処理事業者）の調査では，処理能力については実際の計画能力に対して，どのくらいの余力と受入能力があるかを知りたいのではないか。一般廃棄物処理施設の調査も難しいが，産業廃棄物処理施設の調査はもっと難しい。ここでは，受入能力のある大規模施設でどれくらいあるかが大きなポイントになるので，そこを重点的に調査すると実効性があると思う。

また，能力は年々減少するので，定期的な調査が重要である。定期的，継続的に調査することで実態が少しずつ分かってくると思う。

最初の方で，焼却施設やリサイクル施設のリスト化について述べられていた。将来的には，それ以外の，できれば管理型処分場や安定型処分場の余力調査も実施してはいかがか。そうすることで受け入れ側の全体像がはっきりしてくるのではないだろうか。

**（座長）**

ありがとうございます。事務局側の意見はあるか。

**（事務局　ＭＵＲＣ）**

ありがとうございました。ご指摘のとおり，定期的な調査は必要だと思っている。また，大規模施設調査にしぼった方がよいという意見は前回の協議会でもいただいた。来年度以降，調査ができればよいと思っている。民間事業者への調査協力の仕方を含め，ご意見をいただければありがたいと思う。

**（副座長）**

廃棄物処理施設に関する調査については，私がアドバイザーを務める近畿ブロックでも昨年度から民間（産廃協会）の協力を得ながら実施している。収集車両や重機の台数に関しては容易に情報が得られる。ただ，処理能力に関しては，「余力はない」とする回答が多かった。許可権者が許可している容量に対し実績が少なく，それ以外は余力に当たると思われるが，実際は人員が確保できず処理できないケースがあるとのことである。コロナ禍で外国人労働者を雇用できないという実情もある。民間なので採算のとれないことは行わない。そのような現状からも，余力調査で意味のあるデータが得られるかどうか難しいところである。見かけ上の余力と実際は異なる。

また，各処理施設によって受入条件が異なるので注意が必要である。たとえば，ひも状の廃棄物は，ピット＆クレーン方式の施設であれば問題ないが，コンベア形式の施設では絡まって停止してしまうので受入不可である。また，減ってはいるが，プラスチック受入不可のプラントもある。そのあたりを考慮しなければ，実際の話は聞けない

施設の脆弱性は停電・断水に対してどうかということだけではない。たとえば，一本しかないアクセス道路の橋が落ちたら，プラントが健全でもごみは運べなくなる。あるいは，プラントまでランプウェイを使用する場合，ランプウェイとプラントの連結部分やランプウェイそのものの破損や道路の亀裂でパッカー車が上がれなくなったなど，今までの災害で実際に起きている。ライフラインや備蓄の話のみならず，実際に災害が起きた時，施設の脆弱性がどこにあるのかを含めた調査ができればよい。

**（委員）**

副座長に質問である。先ほどは，平時の情報だけでは充分でないので，徹底的にリスクを調査すべきというご意見だったと思う。これは相当労力のいる作業だし難しい上，その調査が役に立つかどうかも分からない。それよりも，施設の通常の受入状況，焼却量などの情報と，過去の災害時の施設の稼働状況から統計的に割り出すことは妥当なのか。あるいは，それでは信頼性のあるデータが得られないから，今回提案されている調査が必要になるということか。

（副座長）

ご意見はごもっともである。たとえば，これまでの阪神淡路大震災，東日本大震災，熊本地震などでの実績データがあるので，安全係数から処理能力，余力などを求める方法もあるのではないかと思っている。

（委員）

ありがとうございました。平時から施設の立地，稼働状況を整理し，災害時に受入可能かどうかを把握する手順などをいかに迅速に進めるかに注力した方が良いと思った。

（山口県）

平時の対応について，これまで災害廃棄物処理を行った経験のある民間の委託業者をリスト化することもひとつの手だと思う。

（事務局　ＭＵＲＣ）

ありがとうございます。被災経験のある各自治体に調査すべきか，大規模施設を中心に過去の受入経験を調査すべきか，２つのアプローチがある。必要があれば取り入れたい。

（座長）

ありがとうございました。次年度の協議会での方向性については，ただ今いただいたご意見等を踏まえ，事務局で整理していきたい。

本日いただいたご意見を踏まえて，事務局にて本年度の最終的な報告書を作成していく。最終的な確認などについては，座長である私と事務局で進めるということでよいか？

（一同　意義なし）

ありがとうございます。それではそのように進める。議事はここまでとし，進行を事務局に返す。

６　閉会

（事務局　ＭＵＲＣ）

本日は，お忙しいところご出席いただきありがとうございました。なお，本日のご発言以外に，本協議会に関するご意見等があれば，会議終了後より１週間を目途に事

務局までメール等にてお知らせいただきたい。

本年度の協議会で調査した事項等については，本日のご意見等を踏まえ，座長にご確認いただいた上で最終的に報告書としてとりまとめる。

以上をもって，第 15 回災害廃棄物対策中国ブロック協議会を閉会する。オンライン会議も通信を終了とする。本日は長時間どうもありがとうございました。

以上